

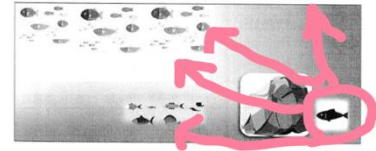
《人権教育の視点を大切に》

4月19日に行われました第2回校内研修で、園川先生から人権教育についてのお話がありました。人権教育の視点で、学級づくりや児童理解を進めていくことの大切さは分かっているつもりでしたが、お話を聞きながら「まだまだ、十分ではないな。」と自分自身を振り返る時間にもなりました。以下、私の学びになった部分です。

○「中心に据える子ども」を念頭に置き、日々の人権教育を推進する。

→私たち教師はどうしても教室の中で支援の必要な子にばかり目がいってしまうように思います。それが悪いことではないですが、そこに隠れてしまう本質的な厳しさを持っている子もいるかもしれないということに気付かされました。また、中心に据える子にスポットライトを当てることで学級全体にも光が当たるという考え方にも納得しました。

これまで以上に子どもたちをよく見取り、中心に据える子が温かく包まれていくような学級づくりを目指していきたいですね。そのためにも、学年や学校でも協力していきましょう。



～おすすめの本の紹介～

今週は、2日頑張ればGWです。GW中はゆっくりされる先生も多いと思います。ここでは学校にある本の中からおすすめの本を2冊紹介したいと思います。私もどちらも読みましたが、内容も面白く、すらすらと読めました。学びも多かったです。GW中にでもぜひ読まれてみてください。

「授業で学級をつくる」 土居 正博

学級経営を授業という切り口で書いてある一冊です。「授業と学級経営は両輪である。」という教師なら誰しもが一度は聞いたことのある言葉を実現していくために、授業の中に「表のねらい(授業のねらい)」と「裏のねらい(学級経営のねらい)」を位置付けることを提案しています。筆者が狙っているのは、学習集団としての学級を育てることです。実践的な内容も多く、とても勉強になります。



「子どもの問いからはじまる授業！」

樋口 万太郎

学習指導要領の「主体的・対話的で深い学び」を実現するためには、子どもの「問い」を大切にしたい授業をすることが求められています。しかし、子どもの問いをどのように引き出して、どのように展開していけばいいのか悩むことも多いと思います。この本では、そんな子どもの問いをもとに授業を作る方法を6つのステップに分けて紹介してあります。超具体的な本です。新しいスタイルの授業に出会うかも。

